

# 国立歴史民俗博物館総合展示 第1室(先史・古代)の新構築事業 2017 年度活動報告

Annual Report on NMJH Permanent Exhibition Renovation Project of Gallery 1  
Prehistoric and Early Japan (FY2017)  
YOKOTA Ayumi and KAMI Naomi

横田あゆみ・上 奈穂美

## はじめに

総合展示第1室新構築事業（以下、第1室リニューアルと表記）は、2002年に策定した「総合展示リニューアル基本計画」[大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館 2004]に基づき各展示室で実施してきた第Ⅱ期展示の一つで、第1展示室（先史・古代）を対象としたリニューアルである。2012年に展示プロジェクト委員（表1（所属と役職は2018年4月時点のもの））によって組織されリニューアル委員会が発足して以降、新展示の準備を開始した。現在は、展示構成や解説グラフィックパネルなどのデザインも固まり、2019年3月19日の開室に向け準備を続けている。

ここでは、前稿[渋谷 2014, 渋谷・大塚 2015, 渋谷・上 2016, 2017, 上・横田 2018]と同様に2017年度の活動内容を報告し、展示構成やリニューアル委員会会議の概要をまとめた。

## 1. リニューアルの展示構成

第Ⅱ期展示の構成は第Ⅰ期の課題を踏まえ考案・改訂されている[前掲 2004, 2014, 2015, 2016, 2017, 2018]。新旧の展示構成および平面図を表2・図1に示す（本稿末にカラー図版掲載）。

表1 展示プロジェクト委員

館内委員			館外委員		
上野 祥史	本館研究部	准教授	小畑 弘己	熊本大学文学部	教授
小倉 慈司	本館研究部	准教授	亀田 修一	岡山理科大学総合情報学部	教授
工藤 雄一郎	本館研究部	准教授	川尻 秋生	早稲田大学文学学術院	教授
鈴木 卓治	本館研究部	准教授	設楽 博己	東京大学文学部・ 大学院人文社会系研究科	教授
高田 貫太	本館研究部	准教授			
西谷 大	本館研究部	教授	瀬口 真司	公益財団法人滋賀県文化財保護協会 企画調査課	副主幹
仁藤 敦史	本館研究部	教授	谷口 康浩	國學院大學大学院文学研究科	教授
林部 均	本館研究部	教授	堤 隆	浅間縄文ミュージアム	主任学芸員
藤尾 慎一郎	本館研究部	教授（代表）	菱田 哲郎	京都府立大学文学部	教授
松木 武彦	本館研究部	教授（副代表）	森 公章	東洋大学文学部	教授
三上 喜孝	本館研究部	准教授	吉田 広	愛媛大学ミュージアム	准教授
村木 二郎	本館研究部	准教授	若狭 徹	明治大学文学部史学地理学科考古学専攻	准教授
山田 康弘	本館研究部	教授	若林 邦彦	同志社大学歴史資料館	准教授

表2 展示テーマ構成

新展示			旧展示		
Ⅰ 最終水期に生きた人々	最終水期の森	最終水期の森	日本文化のあけぼの	列島文化の成立	石器群の変遷
	列島に到達した最初の人々	現代人の行動ってなに！？ 人はいつ列島に渡ってきたのか？ 列島最初の人々が残したもの 環状のキャンプに集う			縄文時代の始まり 縄文土器の地域色 石器の製作と技法 アジアの中の縄文文化
	狩猟採集民とその遊動生活	寒冷環境への適応 石器を作る 遊動生活と住居 良質の石材を求めて 大陸との関係 動物の狩猟と食料 旧石器時代の落とし穴 植物質の食料の利用 折りトアクセサリー			縄文時代のむら 縄文人の生活 漆の技術 仮面の祭り 縄文人の一生
	最終水期の土器と環境激変期の人々	東アジアの土器の出現 土器文化の急速な広がり 定着的な生活の始まり 狩猟具の変化と弓矢の登場 南九州の集落と植物利用 石偶と最古の土偶 れきはくサイエンス・ラボ			日本人の原型 日本人の原型 最初の農村 高床の倉
Ⅱ 多様な縄文列島	縄文文化の時代	縄文文化の環境 縄文人登場 縄文文化のはじまり・おわり・ひろがり 定住生活の意義 縄文文化の地域性 民族誌からみた縄文文化	縄と倭人	弥生人の登場	弥生人の道具 弥生人の特徴 アジアの中の弥生文化 弥生時代の始まり
	定住生活の進展	計画的な食料の調達 高度な植物利用技術の発達 高度な動物利用技術の発達 計画的な土地利用 交易・交流ネットワークの発達 各地の集落と社会			変革された社会 農耕文化の広がり 稲の祭り 青銅祭器の分布 祭器の肥大化 銅鐸絵画の世界 西日本の祭り 東日本の祭り
	縄文人の家族と社会	縄文人の一生 縄文時代の家族像 特別な人々の出現			前方後円墳の時代
	縄文人の「おそれ」・「いのり」・「まつり」	災害への対応 縄文人のけが・病気 縄文人の死生観 再生・循環の「いのり」と「まつり」 縄文人の祖霊祭祀			古墳の出現
	東アジアの中の縄文文化	大陸との接触			古墳に副葬された鏡 アジアにおける日本の古墳 古墳出現前後 前方後円墳の成立 古墳の分布の拡大
	れきはくサイエンス・ラボ	土器の圧痕－レプリカ法－			東国の古墳
	朝鮮半島の農耕社会化と日本列島	朝鮮半島の農耕社会化 縄文晩期の西日本 列島各地の初期水稲稲作			東国の大型前方後円墳 日本語表記の始まり 稲荷山鉄剣 古墳時代のムラと豪族 東国の人物埴輪 後期の前方後円墳 古墳の終末 宝塔山古墳
	金属器出現	列島の鉄器文化 武器と戦い			律令国家
	西と東のまつり	西のまつり 東のまつり			都城と村落
	弥生のくらし	弥生のむら 弥生の墓 弥生の自画像 弥生と縄文			建設の技術 建設された平城京 官人の勤務と生活 貴族の生活 都城のくらし 律令制下の村落 平城京 京内の官寺・薬師寺 頭塔と石仏 地域の生産 郡家と地域支配 国府と交通 太宰府と多賀城
Ⅲ 水田稲作のはじまり	4つの文化へ	北縁、南縁の水田稲作文化 北の文化、南の文化 弥生文化とはなにか	正倉院文書の世界	沖ノ島	東大寺の写経所 律令国家の文書行政 沖ノ島の祭祀遺跡 沖ノ島祭祀の始まり 模造品の供献 新しい祭具の出現 沖ノ島祭祀の終焉
	東夷世界へのまなざし	漢と倭 魏志倭人伝の航海記録			
	1・2世紀の東アジア	中国王朝の世界 ー漢ー 朝鮮半島の世界 ー楽浪と三韓ー 南北市羅の世界 ー苕岐・対馬ー 金印かがやく世界 ー北部九州ー 東西海廊の世界 ー日本海ー しまなみの世界 ー瀬戸内海ー 平野ひろがる世界 ー近畿ー やまなみの世界 ー東海・中部・関東ー			
	倭王への道	倭王への道			
Ⅳ 倭の登場	前方後円墳と倭王権	前期の古墳 中期の古墳 後期の古墳	沖ノ島	沖ノ島	
	地域社会の景観	王をめぐる風景 集落での生活 時代を変える新たな技術			
	倭の境界と周縁	倭の北縁と北方世界 倭の南縁と南方世界 朝鮮半島の倭系古墳			
	境界を越えてー東アジアという世界ー	アジアの王権 王権の天下観			
Ⅴ 倭の前方後円墳と東アジア	自然環境と災害	自然環境 災害	古代国家と列島世界	律令支配と列島世界	
	倭国から日本へ	仏教伝来と古墳の終末 飛鳥と難波、藤原京 「日本」建設			
	中世の胎動	都の明と暗 古代の集落と役所 古代国家の北と南 東アジアのなかの列島世界			
	中世の胎動	中世の胎動			
Ⅵ 古代国家と列島世界	沖ノ島の祭祀と国際交流	沖ノ島の祭祀と国際交流	副1 沖ノ島・特集展示	副2 正倉院文書	
	祭祀の変遷	祭祀の変遷			
	沖ノ島からみた国際交流	沖ノ島からみた国際交流			小テーマなし
	先史・古代の国際交流	先史・古代の国際交流			
Ⅶ 副1 沖ノ島・特集展示	役人の世界	役人の世界	副2 正倉院文書	正倉院文書の世界	写経生の生活 役人の生活 公文書の世界 写経所文書の世界
	正倉院文書の世界	正倉院文書の世界			

## 2. 2017 年度の活動概要

### (1) 概略

2017 年度には、引き続き施工業者と館内委員との打ち合わせを行い、グラフィックやネームプレート、演示具などの内容を検討した。また、工事業者による展示室内の施工が始まり、新展示のオープンに向けて、既存什器や大型模型の廃棄・移設・改修、新規壁面の設置などの作業を進めた。歴博館内では、総合展示リニューアル運営会議（以下「運営会議」）を経て、リニューアル後の開室日を確定し（2019 年 3 月 19 日）、第 1 室のタイトル変更についても承認を得た（「先史・古代」へ）。また、委員以外の館内からの意見を設計に反映させるため、展示設計の縦覧を行った。展示資料に関しては、引き続き複製資料の製作を進めた。旧展示の借用品を一部返却し、新規借用資料の調査を国内外で行った。

### (2) 活動の詳細

以下に、主な作業について詳述する。

※「先送り分」の表記

前年度報告の時点で見送っていた一部工程「先送り分」の作業を、工事契約変更を経て 2017・2018 年度に振り分けて行い、開室日に先行分とそろえてオープンすることになった。開室までの工程のずれを述べる際、本稿では「先送り分」「先行分」と区別して表記する。

【第 1 室リニューアル委員会】 開催日は表 3 参照

全体会議	グラフィックデザインの確認など
館内委員会	各作業の進捗状況、予算状況の確認、開室準備など

【展示工事打ち合わせ】

全体打ち合わせ・テーマ別打ち合わせ 表 4 参照

工事業者との打ち合わせには、展示係のほか、テーマごとに行う場合はその担当教員が、第 1 室の構成テーマ全体に関わる内容の場合は、館内委員会議後に時間を設けるか、代表および副代表が出席し、準備室スタッフが臨席した。

#### • 演示・資料調査—演示方法と展示資料の再検討、資料調査・計測

前年度に納品された展示設計をふまえ、展示構成の意図や演示方法を担当教員に再確認するためのヒアリングを設けた。その後、施工業者との打ち合わせで展示設計の内容を見直した。これは、展示を設計する業者と、それを施工する業者が異なるために発生した作業だった。同時に、教員の意向に沿い、かつ実現可能な演示具や演示方法を検討し、計測などの対応が必要な資料の洗い出しをした。

夏以降、展示ケース内の演示可能面積（体積）を想定して資料を仮並べする、演示具製作用に資料の計測をするなど、実際の展示資料を用いて調査を行った。先送り分については、演示具製作は

表3 リニューアルに関する打ち合わせ等開催日

2017 年度	展示室内の主な工事	展示工事打ち合わせ					関連事項	総合展示 リニューアル 運営会議	第1室 リニューアル 委員会
		演示・資料調査	グラフィック		ネームプレート	映像コンテンツ			
			先行分	先送り分					
2017 4	既存展示資料の 移設・補修・解体・撤去	ヒアリング							
5									
6		演示用資料調査	初校						
7									
8									
9									
10	現場施工	再校						全体会議	
11									
12									
12						シンポジウム			
2018 1	現場施工	演示用計測							
2									
3							企画展示 (古墳展)		

表4 開催日一覧

展示工事打ち合わせ

演示・資料

教員ヒアリング  
業者との打ち合わせ  
調査・計測

4月10・11・12・19日, 6月6・16・20・29日  
5月9・23・25・30日, 6月9日, 7月11日, 2018年3月9日  
6月29日, 8月17日, 11月24日, 1月23日, 2018年3月22・27・28日

グラフィック

先行分

共通サイン等  
Ⅰ：最終水期に生きた人々  
Ⅱ：多様な縄文列島  
Ⅲ：水田稲作のはじまり  
Ⅳ：倭の登場  
Ⅴ：倭の前方後円墳と東アジア  
Ⅵ：古代国家と列島世界

4月24日, 7月12・31日, 10月27日, 2018年1月17日  
5月8日, 7月12日, 8月1・31日, 10月13日, 11月16日, 12月27日  
4月28日, 6月2日, 7月4・31日, 9月12日, 10月24日, 11月15日  
5月8日, 6月2日, 7月20・31日, 9月12日, 10月24日, 11月13日  
4月26日, 6月7日, 7月21日, 8月1日, 9月8日, 10月18日, 11月22日, 12月13日  
4月26日, 6月7日, 7月21日, 9月8日, 10月18日, 11月15・22日,  
4月24日, 5月31日, 6月28日, 7月19日, 8月31日, 11月2日, 12月6・25日, 2018年1月26日

先送り分

Ⅱジオラマ  
Ⅵの一部  
副室1：沖ノ島  
副室2：正倉院  
エビローグ：

11月23日  
12月6・25日, 2018年3月6日  
11月2日, 2018年3月9日  
10月27日, 2018年3月9日  
2018年2月22日, 3月9・22日

ネームプレート

映像コンテンツ

10月27日  
3月1日

関連事項

企画展示

URUSHI ふしぎ物語  
世界の眼で見る古墳文化  
可視化・高度化 国際シンポジウム

7月11日～9月3日  
2018年3月6日～5月6日  
12月2日

総合展示リニューアル運営会議

12月20日

第1室リニューアル委員会

全体会議  
館内委員会議

10月1日  
4月24日, 5月29日, 6月26日, 7月31日, (8月は開催せず), 9月25日, 10月30日, 11月27日,  
12月25日, 2018年1月29日, 2月26日, 3月26日



---

全テーマ分を同時に進めていたため、同工程で進んでいる。

• **グラフィック—初校・再校でのデザイン検討・確定、素材準備**

前年度の初回ヒアリングにおいて、展示構成の意図や展示設計、使用する画像などの仮素材の一部は業者と共有していた。それをもとに業者が作成したデザインを受け取り、内容の検討をする打ち合わせを、テーマごとに重ねた。夏から年末にかけて初校、再校の作業を行い、デザインを確定した。その後、解説原稿や翻訳原稿の確定、画像などの許諾作業が進んでいる。企画展示(「URUSHI ふしぎ物語」「世界の眼でみる古墳文化」)の準備と並行して進めるため、工程が重複しないように別途スケジュールを組んで対応を試みた。

グラフィックをはじめとする第1室全体での表現や語句の統一は、それが望ましいという認識のもと、当初は館内委員会などで副代表を中心に検討を重ねていた。しかし、他の総合展示ではそのような調整の形跡が確認できないことや、時間や人員の不足を理由に断念し、最終的に単一テーマの範囲内では統一を図るよう原稿の調整を行った。先行分は、2018年2月末ごろに最終校を受け取る予定だったが、デザインの変更や素材の準備不足などが原因で、その予定が延期されている。

先送り分についても製作作業を開始した。Ⅵの一部・副室(沖ノ島、正倉院)・エピローグのグラフィックでは、初校の校正を行った。また、テーマⅡの縄文ジオラマの設計を再検討し、壁面写真および書き割りへと変更した。

• **ネームプレート—設計確認、原稿執筆・調整**

工事業者から、展示設計案を具体化した共通デザインの提案があり、その確認を打ち合わせで行った。また、一次原稿の執筆とあわせて、数字や漢字、記号などの表記の統一を館内委員会などで進めた。原稿の校正作業は、工事業者の構成図をもとにしたグラフィックと異なり、最終校の確定まで館内で行う。

• **映像コンテンツ—ソフト制作**

前年度に制作したガイダンス映像のほか、比較的大型のモニターを使用するソフトなど、着手可能なものの制作を進めた。

• **館内調整—開室日の決定、第1室タイトルの変更、展示構成の館内縦覧**

**開室日の決定**

2019年3月19日に開室することを決定した。あわせて、関連行事や広報などの準備に着手した。

**第1室タイトルの変更—「先史・古代」へ**

旧展示のタイトル「原始・古代」は、第1室が扱う分野の最新の研究成果に即しておらず、変更すべきだという意見を館内委員会です承した。その後、全体会議も含めた新タイトル案の検討の結果である「先史・古代」を運営会議に諮り、変更が認められた。運営会議では、同時に、来館者への周知や理解の促進のため、グラフィックやリーフレットなどを用意すべきだとの提案があり、準備を進めている。

---

---

## 展示構成の館内縦覧

リニューアル委員以外の教員から、新展示の展示構成（主にグラフィック）について、ジェンダーに関する問題点の指摘があり、その内容を館内委員会に諮った。その後の運営会議では、ジェンダーの視点に限らず、リニューアルの当事者以外の意見を募る必要性が認められたため、工程上大きな変更は加えられない旨を断ったうえで、2018年1月にグラフィックの再校図の館内縦覧を行った。寄せられた意見は、可能な限り、該当するテーマの担当教員が展示構成に反映するよう努めた。

## • 関連事項

### 寄附金、クラウドファンディング（正倉院文書複製製作プロジェクト）

第1室リニューアルのための寄附金は、2018年2月26日時点で11万円（うち3万円が副室の沖ノ島に）寄せられている。

正倉院文書の複製製作費用を募るクラウドファンディングも行われ、1千万円を超える額が集まった。その成果である複製や寄附者名簿（卷子本）を、第1室の特集展示で披露する予定である。

### 国際シンポジウム

2017年12月2日に、「人間文化研究機構における博物館・展示を活用した最先端研究の可視化・高度化事業」により、歴博国際シンポジウム「再考！縄文と弥生 ―歴博がめざす日本先史文化の再構築―」を都内で開催した。

### 先行公開としての企画展示

2018年3月～5月に開催した企画展示「世界の眼でみる古墳文化」では、第1室で展示予定の複製資料を先行公開した。第1室のリニューアルに向けて製作した複製や模型などの資料の公開は、基本的に見送る方針であるが、この先行公開については、企画の段階から館内委員会に諮り、討議を経て了承を得ていた。

## おわりに

第1室リニューアルは、2018年度末の開室に向けて準備を進めている。今年度は展示室の施工に着手し、展示資料の選定や演示具のデザイン、解説グラフィックパネルやデジタルコンテンツなどのデザインを固める一方で、展示設計書の館内縦覧を行い委員以外の意見を反映させてきた。昨年度まで先送りとしていた一部の展示コーナーについても先行分と同時に開室することになったため、工程を繰上げて内容を詰めている。

また、2016年5月から約2年半あまりの閉室の対応として国際シンポジウムや企画展示を開催し、新展示の内容を一部公開するとともにリニューアルの周知を行った。開室後には、寄附型のクラウドファンディングにより製作可能となった正倉院文書の複製を特集展示コーナーで公開することを予定している。

最終年度（2018）には、一部の資料を除きほぼ全ての資料の制作・改修を完了し、夏季より国内外の資料借用を予定している。秋季以降には資料の演示に取りかかり開室を目指す。最終的な活動内容については来年度に報告したい。

---

## 引用文献

---

- 渋谷綾子. 2014. 国立歴史民俗博物館総合展示第1室(原始・古代)の新構築事業—2012年度活動報告—. 国立歴史民俗博物館研究報告 186: 277-293.
- 渋谷綾子・大塚義昭. 2015. 国立歴史民俗博物館総合展示第1室(原始・古代)の新構築事業—2013年度活動報告—. 国立歴史民俗博物館研究報告 201: 25-40.
- 渋谷綾子・上奈穂美. 2016. 国立歴史民俗博物館総合展示第1室(原始・古代)の新構築事業—2014年度活動報告—. 国立歴史民俗博物館研究報告 201: 25-40.
- 渋谷綾子・上奈穂美. 2017. 国立歴史民俗博物館総合展示第1室(原始・古代)の新構築事業—2015年度活動報告—. 国立歴史民俗博物館研究報告 206: 115-125.
- 上奈穂美・横田あゆみ. 2018. 国立歴史民俗博物館総合展示第1室(原始・古代)の新構築事業—2016年度活動報告—. 国立歴史民俗博物館研究報告 209: 83-94.
- 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館. 2004. 国立歴史民俗博物館総合展示リニューアル基本計画. 59 pp. 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館, 佐倉市.

横田あゆみ(国立歴史民俗博物館・資料整理等補助員)

上 奈穂美(国立歴史民俗博物館・技術補佐員)

(2018年5月24日受付, 2018年8月3日審査終了)



写真1



写真2



写真3



写真4



写真5





写真6



写真7



写真8



写真9



写真10



写真 11



写真 12



写真 13



写真 14



写真 15





写真 16



写真 17

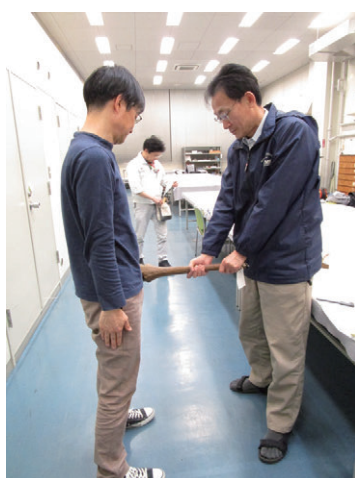


写真 18



写真 19



写真 20



# 展示テーマ

## リニューアル前

- 日本文化のあけぼの
- 稲と倭人
- 前方後円墳の時代
- 律令国家
- 沖ノ島

## リニューアル後

- I 最終永期に生きた人々
- II 多様な縄文列島
- III 水田稲作のはじまり
- IV 倭の登場
- V 倭の前方後円墳と東アジア
- VI 古代国家と列島世界
- 副室 1 沖ノ島
- 特集展示
- 副室 2 正倉院文書



全体平面図 2017年12月時点

図1 展示平面図